

# 平成29年度 社会を明るくする運動

## 最優秀・優秀作品の紹介

7月は『社会を明るくする運動』強調月間でした。この運動の一環として、児童・生徒の皆さんから作文を募集したところ、多くの作品が寄せられました。

厳正な審査を行い、受賞作品が決定しましたので、最優秀・優秀賞を受賞した作品を紹介します。

(最優秀賞のみ全文掲載)

### 最優秀賞 小学校の部

#### 『自慢の町』

綾木小学校 6年 河添 隼人

ぼくの通っている小学校は、美祢市にある小さな学校です。人数や学校の規模はとても小さいけれど、いろんな取り組みを学校内などで行っています。

まず一つ目は、あいさつ運動です。毎月十日は美東の日ということで、五・六年生が自分で作ったタスキを、かたにかけて登校しています。ぼくの作ったタスキには、表には、「あいさつをしよう」裏には、「あいさつを極めよう」と書いています。ぼくが、そのスローガンにした理由は、みんなで地域一面にあいさつの花を広げてほしいと思ったからです。ぼくは、美東の日だけに関係なく自分から進んで気持ちの良いあいさつをしていきたいです。

あいさつ運動の中でも僕たちの学校では、とてもユニークな活動をしています。それは毎日金曜日をイングリッシュデーとしています。イングリッシュデーの朝、登校して先生方や、友達に英語であいさつをしています。英語であいさつをすると、気分もかわりなぜかおたがいが自然と笑顔になるので、ぼくはこの取り組みが大好きです。これからもこのすてきなあいさつの伝統を、綾木小のみんなに守っていってほしいです。そして、美祢市にどんどん広がっていってほしいと思います。

次にぼくが、とてもほこりに思える活動は、地域の方々が行ってくださっている見守り隊の活動です。ぼ

くたちの学校では、一斉下校の時に見守り隊の方々が、一緒に下校してくださいます。ぼくたちと一緒に下校してくださる見守り隊の方々は、いつもやさしく接してくださいます。学校の話やぼくの大好きな野球の話をしながら、帰ったりしたこともあります。一人や子供たちだけの時で帰ると、心細いときもありますが、見守り隊の方が一緒に帰って下さると、ぼくは、本当に心強いです。

その見守り隊の中には、ぼくのおじいちゃんがいます。おじいちゃんは、ぼくが引っこして転向する前から見守り隊をしていました。だからぼくは、おじいちゃんと一緒に帰ることもありました。いつもだと話せないこともいろんな話がけて、ちょっぴりてれくさいけれど、ぼくのとても大好きな時間もあります。

そして、毎月の「美東の日」は、朝も見守り隊の方々は来てくださって、ぼくたちの登校を見守ってくださいます。そして、「美東の日」一斉下校のない時でも、ぼくたちの登校を見守ってくださる方々もいらっしゃいます。おじいちゃんは、朝におまわりさんと一緒に立哨をしています。ぼくは、そんなおじいちゃんをとてもほこりに思います。

このようにぼくの住んでいる地域では、こういった取り組みをしたり、ぼくたちの安全を見守って下さるなどの取り組みがあります。ぼくたちは、そんな活動に守られて成長しているんだなと感じました。

これからも自分たちと地域の方々と一緒にになり、手を取り合いながら明るくすてきな地域にしていきたいです。

### 最優秀賞 中学校の部

#### 『笑顔』

秋芳中学校 3年 鈴木 萌華

先日スーパーの駐車場での出来事です。入り口、出口専用の駐車場は、混んでいて出口からなかなか出れない状態でした。皆が順番に待っている中、後ろの車が急に方向を換えて反対の入り口専用から出ようとしたのです。その車は外車のとても大きな車で案の定、入ろうとしていた車の前をふさいでしまいました。あせったのか、その運転手は強引に前に進み、それでもなかなか道路に出れない事に腹を立てて並んでいた前の車に、クラクションを鳴らしたのです。私も家族もあきれてしまいました。大の大人がルールを無視し、自分の思いのままに車を走らせているその行動に、とても腹立たしい思いでいっぱいでした。

「入り口と出口の意味もわからないんだね。」小学生の妹のひと言。ルールを守れない大人にあきれる出来事でした。そうかと思えば、快く道をゆずってくれる運転手も。こうして少し相手のことを思いやってあげられれば、自分もそうしてあげようとする心が芽生えるのではないかと思いました。

そうした光景は思い返してみると、あちこちで見つけられることに気付きました。コンビニを出るとき、前の人気がさりげなくドアを持って入るのを待ってくれたり、レジでお店の人が会計済みのカゴを運んでくれたとき、

「ありがとうございます。」  
ときちんと言える人。この前は小さな女の子がドアを開けてあげると  
「ありがとうございます。」  
と私に言ってきました。これにはこちらも笑顔がこぼれずにはいられません。

図書館では静かな室内で気持ち良くなつたのか居眠りをはじめ、とうとうイビキをかくおじいさんが現れました。それはしばらく続き、段々、そちらばかりに気が向くようになつたのです。多分、みんなそうだったと思います。見かねた女性職員が

「すみません…。」

と声をかけました。が、そのすぐあと、また寝息が聞こえます。全く効き目がなかつた様です。すると、別の女性職員が声をかけました。今度こそ注意されるだらうと、そのおじさんが少しかわいそうに思えたのですが、

「大丈夫ですか？どこかお具合いが悪いのではと心配になりましたので…。」

と優しく話しかけたのです。おじいさんも少し申し訳なさそうでしたが、「大丈夫なら良かったです。」と職員の方は笑顔で言われました。「伝え方って大事だなあ」と感心した出来事でした。

こうした、ちょっとしたことだけでも、ほほえましいことや感心すること、素敵だなと思ったことを自分もどこかで少し真似してみれば、同じように気持ちよく思ってもらえるのだと思いました。ほんの小さなことだけどその一つ一つが広がっていくのだと思います。それは家庭の中にもあると思います。今、私達は常日頃から気を付けて実せんしていることがあります。それは、父が仕事から帰った際、明るく

「お帰り！」

と言うことです。「ただいま」「おかえり」は当たり前のことがですが、それが当たり前すぎて、言葉にも心がこもっていないと感じたからです。

ある日、父がいつも通り遅くに帰ってきましたが玄関のドアを開け

るなり、小さなため息がきこえました。きっと仕事で疲れているのでしょうか。こんなとき家族の私達ができるることは明るく「おかえりなさい」と言うことではないでしょうか。そうすれば、リビングに入ってきた父の顔も笑顔になります。「ただいま」より先に「おかえりなさい」と私達は言うようになりました。

家庭での何気ないあいさつの中に家族を思いやる気持ちが表れています。しかし、そういう私も朝の機嫌の悪い日は目も合わせず、無愛想に「いってきます」と言うときもありますが、大切な一日の始まりを家族も願っているはずです。「いってきます」と家族に言える一日を笑顔でスタートさせたいと思います。社会を明るくする運動、その一步が家庭にあると思います。



## 優秀賞

### 小学校の部

大田小学校 4年

藤谷 充希

『「心のとげ」をぬくために』

淳美小学校 1年

兼重 圭佑

『あいさつはだいじ』

### 中学校の部

大嶺中学校 2年

村田 莉音

『ごめん…』

秋芳中学校 3年

野村 幸宏

『更生における問題』

## 全国一斉「女性の人権ホットライン」強化週間

山口地方法務局及び山口県人権擁護委員連合会では、夫・パートナーからの暴力、職場におけるセクシュアル・ハラスメント又はストーカー行為などの事案について、「女性の人権ホットライン」による電話相談を平日の8時30分から17時15分まで受け付けています。

この「女性の人権ホットライン」を市民の皆さんに知つていただき、一人でも多くの人から相談を受けることができるよう、右記の期間を強化週間と定め、時間を延長して、電話相談を受け付けます。

我慢していませんか？ 一人で悩んでいませんか？

話してみませんか？ あなたの気持ち。

どんな小さなことでも結構ですから、お聞かせください。

強化週間：11月13日㈪～19日㈰

●相談受付時間

- ・平 日 8時30分～19時
- ・土・日 10時～17時

●相談電話番号 [☎0570(070)810]  
(全国統一番号)

●問い合わせ先

山口地方法務局人権擁護課  
山口県人権擁護委員連合会  
[☎083(922)2295]  
(自動音声案内「1」)

問い合わせ先 地域福祉課 [☎0837(52)5227]